

<様式>

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学 校 名 | 山形市立第五中学校 | 校 長 | 齋藤 真一 |
| | 山形市薬師町一丁目14番10号 TEL: 622 - 0559 FAX: 633 - 9802 | 研究主任 | 小高 直史 |
| 研 究 主 題 | 「これからの時代に必要な資質・能力の育成」(1年次) ～主体性を引き出す生徒中心の授業づくり～ | | |
| 研 究 主 題 設 定 の 理 由 | <p>本校は、平成27年度に県の探究型学習推進校の委嘱を受け、5年間にわたり探究型学習の研究を進めてきた。その結果、探究型学習を踏まえた授業改善を行い一定の成果を得るとともに、探究型学習を土台とする授業づくりが定着した。平成30年度には研究主題「主体的に学習し、創造的な学びを培う生徒の育成」に設定し、一層の探究型学習の推進を図った。</p> <p>本年度はこれらの研究成果を踏まえ、昨年度末の校内研修会で今の生徒の現状を見つめ、これからの時代に必要な資質能力を明らかにし、研究を推進していくこととした。そして、「これからの時代に必要な資質・能力」を育成するためには、主体性を引き出す生徒中心の授業づくりを展開することが必要と考えた。</p> | | |
| 研 究 の 目 標 | ◆令和5年度における目指す生徒の姿 主体的に学習に取り組み、学習の方法を自ら調整できる。 対話や議論を通じて多様な考えを論理的に思考・整理し、相手に応じた表現ができる。 | | |
| | ◆育成したい資質・能力 | | |
| | 知識・技能 基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら、既存の知識・技能と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより定着を図る。 獲得した知識・技能を体系化し、社会の様々な場面で活 | 思考力・判断力・表現力等 知識・技能を適切に組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決していくために必要となる思考力。 思考した事を整理して、伝える相手や状況に応じて表現する力。 | 学びに向かう力・人間性等 主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の学習を調整する力。 多様な考えを尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力。 |

| | | | |
|--|------------|--|--|
| | 用できるようにする。 | | |
|--|------------|--|--|

| 研究の内容 | <p>これまでの本校の校内研究で培ってきた探究型学習を土台にしなが、ら、「主体性を引き出す生徒中心の授業づくり」を成立させる単元構成の工夫を通して、育成したい資質・能力を育てていく。</p> <p>◆資質・能力を育成する手だて</p> | | | | | | | | |
|--|--|--|-------------|--------------|-----------|--|--|--|--|
| | <table border="1"> <tr> <td colspan="3">資質・能力を育む単元構成</td> </tr> <tr> <td colspan="3">資質・能力を育成するため単元構成を検討する。単元構成に振り返り、対話的な学び、評価を効果的に仕組む。「課題」は生徒の主体性を引き出す課題を設定し、生徒中心の授業となるように工夫する。</td> </tr> </table> | | | 資質・能力を育む単元構成 | | | 資質・能力を育成するため単元構成を検討する。単元構成に振り返り、対話的な学び、評価を効果的に仕組む。「課題」は生徒の主体性を引き出す課題を設定し、生徒中心の授業となるように工夫する。 | | |
| | 資質・能力を育む単元構成 | | | | | | | | |
| | 資質・能力を育成するため単元構成を検討する。単元構成に振り返り、対話的な学び、評価を効果的に仕組む。「課題」は生徒の主体性を引き出す課題を設定し、生徒中心の授業となるように工夫する。 | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">学びをつなげる振り返り</th> <th style="width: 33%;">対話的な学び合いの工夫</th> <th style="width: 33%;">指導と評価の一体化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 振り返る場面を意図的に仕組み、振り返りの視点を与え、振り返りを言語化させる。 既習事項、他教科、実社会との関連など、学んだことがつながるような工夫をする。 </td> <td> 対話を通して思考を交流し、考えを深めたり、広げたりする学習活動となるようにする。 I C Tや思考ツールなどを活用し、生徒同士の対話、生徒と自己の内面との対話を効果的に仕組んでいく。 </td> <td> 学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。 学習評価を基に教育課程の改善・充実を図るというP D C Aサイクルを確立する。 </td> </tr> </tbody> </table> | | | 学びをつなげる振り返り | 対話的な学び合いの工夫 | 指導と評価の一体化 | 振り返る場面を意図的に仕組み、振り返りの視点を与え、振り返りを言語化させる。 既習事項、他教科、実社会との関連など、学んだことがつながるような工夫をする。 | 対話を通して思考を交流し、考えを深めたり、広げたりする学習活動となるようにする。 I C Tや思考ツールなどを活用し、生徒同士の対話、生徒と自己の内面との対話を効果的に仕組んでいく。 | 学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。 学習評価を基に教育課程の改善・充実を図るというP D C Aサイクルを確立する。 | |
| 学びをつなげる振り返り | 対話的な学び合いの工夫 | 指導と評価の一体化 | | | | | | | |
| 振り返る場面を意図的に仕組み、振り返りの視点を与え、振り返りを言語化させる。 既習事項、他教科、実社会との関連など、学んだことがつながるような工夫をする。 | 対話を通して思考を交流し、考えを深めたり、広げたりする学習活動となるようにする。 I C Tや思考ツールなどを活用し、生徒同士の対話、生徒と自己の内面との対話を効果的に仕組んでいく。 | 学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。 学習評価を基に教育課程の改善・充実を図るというP D C Aサイクルを確立する。 | | | | | | | |

| | |
|-------|--|
| 研究の方法 | <p>(1) 週1回の研究推進委員会で研究についての話し合いをもち研究を牽引する。また、研究推進委員会の内容を研修通信や職員会議等で発信し、全職員の共通理解のもと研究を進める。</p> <p>(2) 教科部会を週1回時間割の中に組み込み、研究主題に即しかつ教科の本質に迫る単元構想や指導案の検討等を行い、授業改善に取り組む。</p> <p>(3) 校内授業研究会は年2回行う。第1回目は、教科から1授業を今年度の研究内容に基づく提案授業を行い、全職員で参観し今年度の校内研究について共通理解を図る。第2回目は第1回目の授業研究会をもとに改善した授業研究会を行う。</p> <p>(4) 1教科1授業を計画的に実施する。教科部会では、単元についての構想を練り合い、今年度の研究に沿った授業を行う。</p> <p>(5) 年間2回の生徒アンケートを実施し、年間及び経年での生徒の変容を分析しながら、研究の成果と課題を明らかにする。また、年度末に職員アンケートを実施し、次年度の研究の方向性を見定める。</p> |
|-------|--|

| | |
|-----|--|
| 研究の | <p>4月6日 第1回校内研修会（今年度の校内研究について）</p> <p>6月5日 第1回校内授業研究会</p> <p>6月～1月 1教科1授業の実践</p> <p>7月28日 第2回校内研修会（今年度の研究に関わる研修）</p> <p>9月上旬 生徒アンケート実施①</p> <p>11月 第2回校内授業研究会</p> <p>1月下旬 生徒アンケート実施②、職員アンケート実施</p> <p>1月末まで 各教科で研究紀要作成</p> |
|-----|--|

| | | |
|--------|------|-----------------------------------|
| 計 画 | 2月 | 第3回校内研修会（今年度の研究のまとめと来年度の校内研究について） |
| | 3月中旬 | 研究紀要発行 |